

SSI 学会誌編集委員会 2016 年度第 2 回委員会 議事録

日時：2016 年 9 月 11 日（日）16:30～17:40

場所：札幌学院大学 A302

参加者：伊藤、岩井、遠藤、小笠原、河又、北村（智）、北村（順）、桜井、関谷、野田、服部、松本、吉田（寛）、河島（オブザーバー）

【審議事項】

1. 編集体制の改革について（和文誌編集長と編集取りまとめ役の分担）

- ・「SSI 学会誌編集作業の流れメモ」（別紙 1）のとおり和文雑誌の編集体制を変更し、正副編集長と編集取りまとめ役の役割を分担する。ただし、原案の新しい編集長 1 名＋副編集長 2 名に関しては、編集長 1 名＋副編集長 1 名に修正の上で承認された。
- ・正副編集長は投稿論文に関する審査担当委員の選定など、審査作業の進行管理を担当する。なお、審査担当委員の選定に際しては、他の編集委員（著者および関係者を除く）の協力を積極的に仰ぐこととする。
- ・正副編集長の任期は 1 年間とし、翌年度の新編集長は旧副編集長が担当する。新副編集長は編集委員より選任する。（正副編集長をあわせて連続 2 年間の任期となる。）
- ・新しい編集担当責任者は、2 名から 1 名に修正する。編集担当責任者は、表紙や目次等の作成、完成原稿の編集や入稿、校正の管理等の編集管理を担当する。任期は各号ごとに交代する。
- ・編集体制の改革にともない、学会誌要綱（別紙 2）および審査要綱（別紙 3）も改訂する。

2. 投稿取り下げ論文の再投稿への対応について

- ・投稿申込書（様式 2）の書式を変更し、再投稿の場合にはその旨を投稿者が自己申告する形式にする。
- ・著者により投稿が取り下げられた論文が再度投稿された場合は、正副編集長は審査担当委員に過去の投稿・審査の経緯や関連する情報について連絡し、編集委員会としての審査の継続性・整合性が保たれるようにする。
- ・関連して、審査担当委員が査読結果を取りまとめて編集委員会 ML に判定を諮る際には、「B、B、C」などの判定結果のみを通知するのではなく、3 名の査読者の査読報告書を添付することを確認する。（審査結果が審査担当委員個人の判断ではなく、編集委員会全体としての判断であることを担保するため。）
- ・査読報告書は、各論文の審査担当委員が審査結果確定後 1 年間保存することとする。

3. 今後の英文雑誌編集長について

- ・英文誌 vol.10（2017 年 9 月末発行予定）の編集長は野田委員が担当する。もう 1 名の編集長は、後日、北村委員長から依頼する。
- ・新編集長により、早々に vol.10 の CFP の告知を行う。締切スケジュールは vol.9 に準じる。（vol.9 エントリー締切：2015 年 11 月 30 日、原稿締切：2016 年 1 月 15 日）

4. 今後の和文雑誌編集担当責任者（旧編集長）について

- ・編集担当責任者が2名から1名体制に変更したのにもない、予定した委員をスライドして担当者とする。第5巻2号の編集担当責任者は、河井委員が担当する。（別紙4）

5. 今後の特集企画について

- ・第5巻2号に予定していた特集「メディア」は、担当委員が編集委員ではなくなったためにキャンセルする。第5巻3号（2017年3月末発行予定）の特集は引き続き「ジェンダー」（担当：金委員）として計画を進める。（別紙4）
- ・第6巻以降の特集については、新体制の正副委員長および編集担当責任者が中心となって企画を提案し、編集委員会で決定する。
- ・第5巻2号の主な掲載原稿は次のものを予定している。
 - 2015年学会大会基調講演およびシンポジウム（担当：桜井委員）
 - 書評・横幹連合編『<知の統合>は何を解決するのか』（執筆：吉田寛委員）
 - 書評・横幹連合編『カワイイ文化とテクノロジーの隠れた関係』（執筆：北村委員）
 - 書評・西田亮介『メディアと自民党』（執筆：藤代裕之会員）
- ・2016年シンポジウムに関しては、北村委員長がアルバイト学生を活用してテーブル起こしを行う。

6. その他

- ・とくになし

【報告事項】

1. 学会誌発行状況

- ・第5巻1号は校正作業が進行中であり、再来週までに発行の見込みである。

2. 委員の追加について

- ・来期からの新編集委員として、以下の各会員に委員就任の内諾を得た。なお、業務引き継ぎを円滑にするために、新委員予定者には今期中にも編集委員会 ML 登録や委員会のオブザーバー参加などを依頼する。（別紙5）
 - 河島茂生会員（青山学院女子短期大学）
 - 小寺敦之会員（東洋英和女学院大学）
 - 天笠邦一会員（昭和女子大学）
- ・引き続き、各委員は新編集委員の候補者を北村委員長まで推薦することとする。

3. J-Stage への登録について

- ・和文雑誌は第5巻1号から、英文雑誌は vol.9 から J-Stage への登録を開始する予定である。また、バックナンバーについても、順次公開していくことになる。CiNii で公開済みの号も順次追加で公開されることになる。

- ・ 今後は、和文誌および英文誌の発行に際して、編集担当責任者が JST 作成のリストに基づき J-Stage 登録前のチェックを行っていく。いったん公開した内容を修正した場合には、永遠に修正記録が残ってしまうため、編集担当責任者は慎重にチェックすること。
- ・ J-Stage 公開ページに掲載するヘッダー画像は、北村委員長がアルバイト学生に依頼してデザイン案を準備する。
- ・ J-Stage の投稿審査システムの活用についても、今後検討していく。

4. その他

- ・ 共著論文の投稿資格について、従来の全著者が会員であることを求めるものから、第 1 著者のみが会員であればいい形に変更するという提案が、本日の理事会で承認された。さっそくウェブと会員 ML で告知する。(別紙 6)
- ・ 将来的な論文誌掲載料の導入について、継続して検討する。
- ・ 次回編集委員会は、12 月 10 日 (土) 東京大学での開催を予定。

以上